



務

土木學會誌 第十一卷第四號 大正十四年八月

- 大正十四年五月十六、七の兩日に涉り靜岡縣清水港に第十四回視察旅行を爲す
參加せし會員七十名なりき
- 同年同月二十一日土木學會震害調査委員會第二十四回特別委員會を開き廣井、
岡野、川口、竹内、の各委員井上、沼田兩幹事出席す
- 同年同月二十二日土木學會高速度鐵道調査委員會第二十四回特別委員會を開き
古川委員長大河戸主査安倍、田中、西、平井、古川(淳三)、物部、山崎の各委
員土井、野坂の兩嘱託出席す
- 同年同月二十六日編輯委員會を開き川口委員長佐藤、平井、谷井、山崎の各委
員三浦嘱託代沼田政矩君出席會誌編輯上に付き協議を爲せり
- 同年六月二日土木學會誌第十一卷第二號發行成規の届出を爲し同三日各會員に
配付せり
- 同年同月五日土木學會高速度鐵道調査委員會第二十五回特別委員會を開き大河
戸主査安倍、西、平井、山崎の各委員沼田幹事土井、野坂の兩嘱託出席す
- 同年同月十一日土木學會震害調査委員會第一部會第二十回委員會を開き安藝主
査青山、石川、金森、佐藤、田村、伴、眞島、水野の各委員沼田幹事出席す
- 同年同月十五日同上第二十一回委員會を開き安藝主査青山、石川、高田代(松
本)、田村、伴、眞島、水野の各委員沼田幹事出席す
- 同年同月十六日役員會を開き日下部會長市瀬副會長金森、草間、後藤、竹内、
眞島の各常議員中山前會長井上、丹治兩主事川口編輯委員長出席日下部會長議
長席に着き下記事項を決議せり。
- 一震害調査報告書の印刷方並に其費用に關し義に小委員を設け調査研究せられ
たる報告に基き印刷に着手すること。
- 一會費怠納の爲除名せられたるものにして再び會員たらんと欲するときは怠納
會費を追徵の上新規入會者として取扱ふこと
- 一來る七月八日午後五時より第三十九回講演會を開催することとし該講演を東
京帝國大學教授工學博士伊東忠太君に依頼すること又講演終了後晩餐會を催

すこと

其他會務に関する事項

- 同年同月十九日土木學會高速度鐵道調査委員會第二十六回特別委員會を開き古川委員長大河戸主査西、古川(淳三)、物部、山崎の各委員沼田幹事土井、野坂の兩嘱託出席す
- 同年同月二十三日編輯委員會を開き川口編輯委員長、佐藤、黒田、谷井、の各委員三浦託囑出席會誌編輯上に就き協議を爲せり
- 同年七月三日土木學會高速度鐵道調査委員會第二十七回特別委員會を開き古川委員長大河戸主査安倍、田中、西、古川(淳三)、山崎の各委員沼田幹事出席す
- 同年同月八日午後五時より麹町區有樂町一丁目一番地帝國鐵道協會に於て第三十九回講演會を開催し下記の講演ありたり當日は日下部會長外役員會員及會員外の者とも併せて百二十餘名の來聽者ありたり尙ほ閉會後同所に於て晚餐會を開き三十六名の出席者あり盛會裡に同八時散會せり
- 同年同月十日土木學會震害調査委員會第四部會第七回委員會を開き廣井委員長那波主査稻垣、川口、楠田、曾山、太刀川、丹治、橋本、溝口、山田の各委員沼田幹事小田嘱託出席す
- 准員野崎銑君は「佐々木」と改姓せられたる旨届出ありたり
- 下記の諸氏は退會せられたり

准員青木亮三郎君 同井口真造君 同岩坪實君
 同君島千代藏君 同中安治郎君 同仁木茂平君
 同本多又太郎君

- 同年五月十六日以降同年七月十五日までに入會を承認し名簿に登録したるもの
 下記の如し(○印は准員より轉したるもの示す)

會 員 (三名)

露口秀夫君 ○沼田政矩君 渡邊嘉夫君

准 員 (四三名)

伊藤幸一君 磯部光雄君 岩瀬安藏君

大須賀一策君 △門澤利三君 蒲生喜助君

川口正彌君 木村小市君 △小陳彌一郎君

△小林勇君 △高敏郎君 △高凌美君

△坂 本 雅 雄君	△佐 藤 常 雄君	△佐 野 俊 男君
△新 郷 高 一君	鈴 木 清 一君	未 松 榮君
△高 野 與 作君	△高 橋 佐 一君	△辰 野 長 太 郎君
田 中 鑑君	△田 中 民 雄君	△谷 口 成 之君
△張 冒 熙君	土 屋 龍 夫君	寺 嶽 多君
土 井 正 中君	△富 澤 精 司君	中 川 竹 三 郎君
中 尾 光 信君	△中 明 宅 次君	△中 村 正 照君
長 坂 一 彦君	△野 口 兼 吉君	△野 口 誠君
△原 田 修君	△水 野 錦 三君	△南 出 保 太 郎君
△村 上 時 治君	△村 上 正 雄君	△山 田 庫 吉君
山 本 幸 夫君		

學 生 員 (四一名)

芥 川 晖 雄君	秋 山 和 夫君	阿 部 良 隆君
厚 本 和 佐君	伊 藤 和 夫君	石 塚 宇 吉君
井 上 太 郎君	井 上 元 雄君	猪 口 理 德君
岩 崎 勇君	岩 本 常 次君	上 野 正 夫君
内 田 弘 四君	王 者 貴君	大 月 幸 男君
小 川 正 信君	小 笠 原 顯 性君	小 久 見 靖 男君
小 宅 習 吉君	門 倉 日 出 男君	金 子 南 瀧君
川 田 光 惠君	河 野 爲 昌 司君	木 村 又 左 衛 門君
雲 城 廣 一君	權 平 石 義 己君	清 水 定 次 郎君
瀧 泽 和 一君	近 野 博 君	趙 福 井 護君
西 村 捷 比 古君	藤 井 秀 文 君	平 原 孝 一君
平 松 吉 二君	三 木 光 一君	水 田 增 美君
町 田 久 壽 男君	若 楓 章 一君	
山 田 友 治 郎君		

○同十四年五月十六日以降同年七月十五日までに寄贈及交換を受けたる雑誌其他
下記二十七種なり

寄 贈 を 受 け た る 分

港灣第三卷第三、四號

東京市帝都復興事業概要

二冊

一冊

港 灣 協 會

東京市復興總務部

寫真化學 第四號	一冊	寫真化學會事務所
建築資料協會時報	一冊	建築資料協會
展覽會記念號第一輯及土木 建築資料第八卷第五・六號	三冊	土木建築資料通信社
工學部紀要第三冊第四號	一冊	九州帝國大學工學部
同 第三卷第八號	一冊	京都帝國大學工學部
東北帝國大學工學報告第五卷第一號	一冊	東北帝國大學
大阪市第一圖下水道改良法	一冊	大阪市役所水道部
工政第六七——第六九號及 文官任用令問題意見集四冊	七冊	社團法人工政會
電氣之友第六一二——六一六號	五冊	合資會社電氣之友社
シビル第四卷第六・七號	二冊	シビル社
名古屋工業會々報第二六號及第二七號二冊		名古屋工業會
電鐵製綱第一卷第六號	一冊	電氣製綱研究會
土木工事畫報第一卷第五號及六號	二冊	工事畫報社
工人 第四六號	一冊	日本工人俱樂部
電氣タイムス第一卷第三號及第四號	二冊	電氣タイムス社
三菱電機第一卷第四號及第五號	二冊	三菱電氣株式會社 神戶製造所
國際建築時論第一卷第七・八號	二冊	國際建築協會事務所
水曜會誌第四卷第九號	一冊	水曜會

交換の部

建築雜誌 第三九輯 <small>第四七〇號 第四七二號</small>	三冊	建築學會
工業化學雜誌第三二六號—第三二七號 <small>第四八編第六號及第七號</small>	四冊	工業化學會
造船協會雜纂第二四號及 造船振興調查報告書	六冊	造船協會
機械學會誌第二八卷第九八號	一冊	機械學會
鐵と鋼第十一年第六號及第七號	二冊	日本鐵鋼協會
電氣學會雜誌第四四四號	一冊	電氣學會
業務研究資料第十三卷第六・七號	二冊	鐵道省大臣官房研究所

會員工學士中野昇君は大正十四年七月四日准員太田準二君は同年五月三十一日同小田島健三君は同年六月十五日死去せられたり本會は哀悼の意を表す

第十回土木學會視察旅行記事

大正十四年五月十六日及十七日の兩日に亘り土木學會第十回の視察旅行を靜岡縣清水港に行つた。

十六日(土曜日)正午會員職員約七十名は菊花の團員章を胸に輝しながらも貸切の二等車に收つて東京驛を出發した雲間を洩れる陽の光りがきらきらと心地よい汽車が動き出すとサンドウキツチ、ビール、サイダー、水菓子等が配られる。會員は或は久闊を舒するあり、或は談笑するあり、或はトランプに興するあり全く少年時代に返つたやうな騒ぎだ。殊に今夜は靜岡市で、明日の晝は清水市で歡迎會が我々を待つて居ると云ふのでなかなか景氣が宜い。國府津驛では此騒ぎの中へ碁將棋が持込まれた。沼津を過ぐる頃清水港修築事務所長須山英次郎氏より「清水港ノ現在及將來」、「清水港修築工事ノ大要」及清水港繪葉書を又青山士氏より「富士川下流改修工事概況」を配布された。明日の晴天を思はする如く天の一方が美しく光つて居たが富士は曇つて一寸も姿を見せない。

午後六時二十分靜岡驛に下車し縣廳の佐藤技師や保線事務所の靜間技師の出迎へを受け、直に「土木學會視察團用」と大書した自動車十數臺に分乗して招待會場たる料亭求友に入つた。此處で靜岡市長の歡迎の辭土木學會長の答辭あり、美女の斡旋にて山海の珍味の饗應にあひ歎を盡して十時退場、自動車にて今夜の宿と決められた興津水口館に送られた。

十七日朝各々清見寺等を見物し終つて九時内務省のランチにて興津より三保村に渡り、三保神社にて羽衣や寶刀を拜し亦羽衣の松を見た。此頃より雨が漸く劇しく全くの本降りとなつてしまつた。

再びランチで引歸し清水港修築工事を見學する。浚渫船が頃りに働いて居る。工事場に上陸すると岸壁用鉄筋混凝土函が三個製作中である。

清水港は北及西は陸地、南及南東は三保岬に囲まれ僅に東方の一部が駿河灣に展くのみで水深く波穏にて天然の良港であるから古來船舶の出入多かつたが明治三十二年八月開港場に指定せらるゝや港灣設備改良の必要を認め縣は明治四十一年之が修築を計畫し工費 465,000 餘圓を以て四十二年起工し、大正三年竣工したが之は單に本港に對する應急的施設に過ぎなかつたので更に之が改良を計るの止むなきに至り、大正九年政府は之を第二種重要港灣に選定し國費にて其工費の 1/2 を補助し、大正十年度より同十五年度に至る六ヶ年繼續工費 550,000 圓を以

て修築を行ふことゝし且内務省直轄工事として之を施行することゝなり横濱土木出張所清水港修築事務所の設置を見るに至つた。

混凝土函を背景にして記念の撮影を終り自動車で十二時過ぎ鐵舟禪寺に於ける清水市の歡迎午餐會に臨んだ。晴天であつたらば富士を見晴らす不二見山頂にて接待さるゝ筈であつたさうだのにかへすがへすも今日の雨が恨めしい。

餓腹御馳走になつて外に出ると雨は殆んど歇んだが空は依然として曇つて居る。會員諸君の希望で豫定を變更し此處で視察旅行團の解散をした。

今回の旅行は甚だ能率のいゝ方で「こんなのなら毎年缺かさない」と云ふ會員が多かつた。事程左様に靜岡市や縣廳や清水市や修築事務所の方々には御迷惑をかけた次第である。

終りに臨み御招待下さつた靜岡市長伴野欣平氏や清水市長大島要藏氏及其他職員の方々又萬端御盡力を辱くした横濱土木出張所安藝杏一氏、清水港修築事務所長須山英次郎氏、靜岡縣廳土木課長荻野廣氏、同技師佐藤林藏氏其他の諸氏に深く感謝の意を表する。

參 加 會 員 氏 名 (五十音順)

安 藝 杏 一君	安 藤 新 六君	青 木 勇君	青 木 齊君
青 山 士君	淺 井 芳 之 助君	稻 垣 甚君	稻 菜 恵君
上 野 有 劳君	上 原 直 吉君	遂 藤 藤 吉君	小 田 川 金 之 君
大 河 内 甲 一君	大 久 保 敏 行君	岡 野 昇君	岡 村 信 三 郎 君
荻 野 廣君	加 藤 勇君	片 野 文 吉君	樟 島 正 義君
川 上 浩 二 郎君	川 口 愛 太 郎君	木 村 貫 一 郎君	北 澤 懇 夫君
久 保 田 正 繼君	日 下 部 辨 二 郎君	草 間 健君	後 藤 佐 彦君
近 藤 仙 太 郎君	佐 藤 鼎君	佐 野 藤 次 郎君	彭 城 嘉 津 馬君
坂 牛 義 任君	櫻 山 壮 次君	島 重 治君	下 村 尚 義君
須 山 英 次 郎君	鈴 木 善 之 助君	竹 内 季 一君	丹 治 經 三君
戸 原 興 四 郎君	那 須 章 錦君	内 藤 定 静君	中 倉 専 一 郎君
丹 羽 鍾 彦君	野 田 六 次君	橋 本 敬 之君	濱 野 瀬 四 郎君
伴 宜君	比 田 孝 一君	傳 銳君	烟 内 貞 造君
堀 江 勝 己君	眞 島 健 三 郎君	松 村 務君	宮 島 三 郎君
本 島 正 輔君	茂 庭 忠 次 郎君	柳 生 義 郎君	山 口 秀 造郎君
山 本 斯 次 郎君	吉 田 耕 一君		

土 木 學 會 職 員

石 川 元 次 岡 村 又 市 北 村 嘉 太 郎 是 永 英 雄 沼 田 政 矩
山 岸 倉 藏 (完)

土木學會誌第十一卷第三號訂正及正誤表
 Neue Versuche für die elastische Linie und die Verdrehung des auf den
 Querschnitt Biegungs-bzw. Torsionsmoment wirkenden Balkens.
 Druckfehler-Berichtigungen.

Seite	Zeile	
500	1	worin N =Achssialkraft des Querschnitts,
„	2	V =vertikale Schubkraft
„	4	H =horizontale Schubkraft
„	12	worin F =Querschnittsinhalt.
501	6	(20) $\mathfrak{T}_0 = \frac{l-x_0}{l} (P_y z_0 - P_z y_0)$
„	10	$+ \left(\frac{BT}{EI} - V_0 \right) \frac{dy}{dx} - \left(\frac{1}{EI} - \frac{1}{EF} \right) BM$
503	18	$E=2,000,000 \text{ kg./cm}^2$
„	19	$\mu=800,000 \text{ kg./cm}^2$
504	9	0.034,728 [statt 0.043,728]
505	15	$\beta = -\frac{3V_0 \mathfrak{T}_0 \mathfrak{M}_0}{2\mu J EI EI'}$
510	10	(10) $\frac{d^2\varphi}{dx^2} + \dots = \alpha_1 x + \dots + \alpha_6 x^6$
512	1	seitlichen [statt seitlichen]
513	22	$I > 1.5 I'$ [statt $I > 1.51 I'$]
516	letzte	$\frac{d^2z}{dx^2}, \frac{d^2y}{dx^2}$ aus Gl. (3), (4), erhält man
517	14	$\alpha'_1 = -\frac{P_z}{\mu J EI EI' l^6} \{ 2 P_z l^6 + \dots \}$
521	3	$q = \frac{18(EI)^2 EI' (\mu J)^2 z_0}{l^5 y_0^2 (EI - \mu J) (2\mu J - EI')}$

新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配付致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合は一部に付下記金額振替口座東京一六八二八に拂込用紙通信欄に其旨記入し請求せられたし

殘 部 内 譯

第五卷一號二號	一部 金 壱 圓
第六卷三號六號	同
第七卷一號二號三號四號	同金壹圓五拾錢
第八卷一號二號三號	同金 貳 圓
第九卷一號二號三號五六號	同金 貳 圓
第十卷一號二號三號四號五號六號	同金 貳 圓
第十一卷一號二號三號四號	同金 貳 圓
東京市内外交通に關する調査書	金 參 圓
土木學會誌索引	金 五 十 錢

本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の宿所の不明なるときは會誌の配付を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費の支拂には差支なき様御配慮相成たし

會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し必ず御支拂の事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立共支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に(拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事)御拂込相成度尙整理の都合有之候に付會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相成たし

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月		自五月至八月		自九月至十二月	
		第一期分二月 徵 收	第二期分六月 徵 收	第三期分十月 徵 收	第四期分十一月 徵 收		
會 員	金 拾 八 圓	金 六 圓	金 六 圓	金 六 圓	金 六 圓		
准 員	金 拾 貳 圓	金 四 圓	金 四 圓	金 四 圓	金 四 圓		
學 生 員	金七圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢		

新に入會したるものは月割計算とし入會の翌月集金書を發す

會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金集金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配付をも停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御振込相成たし

會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年二月四月六月八月十月十二月(印刷又は原稿等の都合に依り翌月上旬配付の事あり)に發行し漏なく配付すべきに付翌月未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配付不可能のことあるべきに付御留意相成たし

領收報告　自大正十四年五月十六日　至大正十五年七月十五日　間受付分　(受付順)

寄附金

金參拾五圓也	會員 金森 敏 太郎君	金百貳拾五圓也	同 那波 光 雄君
金八拾五圓也	同 稲垣 兵太郎君	金百五圓也	同 杉浦 宗三郎君
金八拾五圓也	同 山田 達治君	金貳拾圓也	同 丹治 紹三君
金百貳拾五圓也	同 廣井 勇君	金五百圓也	賛助員 川崎 寛美君
金參拾圓也	會員 橋本 敬之君		

會員大正十二年度第一期分會費

金六圓宛	木村 忠七郎君	松本 岩太郎君
------	---------	---------

會員大正十二年度第二期分會費

金六圓	大竹 邦平君
-----	--------

會員大正十二年度第三期分會費

金六圓宛	木村 忠七郎君	三野 熊雄君	大竹 邦平君
中村 麟次君	宮崎 正夫君	永田 民也君	松本 岩太郎君

會員大正十三年度第一期分會費

金六圓宛	奥山 龍藏君	市村 定君	森川 藤次君
池田 季苗君	永田 民也君	金澤 孝助君	松本 岩太郎君

會員大正十三年度第二期分會費

金六圓宛	木村 忠七郎君	宮内 義則君	森川 藤次君
永田 民也君	加賀 種二君	松本 岩太郎君	

會員大正十三年度第三期分會費

金六圓宛	白石 誠夫君	三輪 周藏君	加賀山 學君
丸山 照六君	片野 文吉君	西門 善三郎君	楠 宗道君
佐伯 利吉君	村越 三四郎君	上村 爲人君	森田 一郎君
新元鹿之助君	加賀 種二君	星野 信之君	金澤 孝助君
松本 岩太郎君			

會員大正十四年度第一期分會費

金六圓宛	白石 誠夫君	市村 定君	朝倉 勳君
三野 熊雄君	鶴谷 良作君	丸山 照六君	森川 藤次君
西門 善三郎君	三好 新八君	福田 憲次君	新元鹿之助君
石澤 寛之君	松本 岩太郎君		
金四圓五拾錢宛	石井 未来太郎君	本間 源兵衛君	藤田 弘直君
鈴木 長明君			

會員大正十四年度第二期分會費

金六圓宛	森井 健介君	小川 東吾君	長崎 敏曾君
阿部 美樹志君	安倍 強君	荒川 參太郎君	青木 勇君
愛甲 勇吉君	青木 肇君	新井 融吉君	秋元 繁松君
犬飼 壽太郎君	乾慶 藏君	今井 義和君	池田 圭男君
池田 勝藏君	井上 範君	石橋 洋彦君	石坂 二郎君
磯村 利水君	伊藤 常夫君	井上 親雄君	池邊 稲生君

長尾元君
正重吉君
二木橋耶君
高有鑑江君
大吉原佐村
忠本間村
十郎君
吉村
吉江
大佐
忠原
吉村
吉村
大佐
忠原
吉村
忠本間村
吉村
忠井藤根
吉藤根
忠池田苗君
吉池田苗君
忠樺島三君
吉樺島三君
河原直文君
松田虎喜代君

金四圓五拾錢

金四圓

會員大正十四年度第三期分會費

金六圓宛

准員大正十一年度第二期分會費

金參圓永戶三郎君

准員大正十二年度第一期分會費

金四圓宛

側柄小一君

准員大正十二年度第二期分會費

金四圓宛

熊田隆治君

加藤三十郎君

佐藤忠三郎君

金壹圓

准員大正十二年度第三期分會費

金四圓宛

八尋清彦君

田部正志君

星野文雄君

貝沼誠時君

荒木忠義君

石崎貞二郎君

准員大正十三年度第一期分會費

金四圓宛

八尋清彦君

助一郎君
田利兵君
山下寅三郎君
島眞甚郎君
高橋甚節君
春木宣三郎君
大海黒斐君
菅野斐君
野方吉君
福宗次郎君
杉寺弘君
寺井航君
牛千葉君
千菜利君
澤達君

金四圓省二郎君

善十郎君
遠藤善郎君
桑原利英君
堀田利子君
安田利夫君
阿照利二君
田重宏君
青蒲利惠君
木生利馬君
金澤利喬君
石澤利助君
千澤利君

金四圓

會員大正十四年度第三期分會費

金六圓宛

准員大正十一年度第二期分會費

金參圓永戶三郎君

准員大正十二年度第一期分會費

金四圓宛

側柄小一君

准員大正十二年度第二期分會費

金四圓宛

坂元左馬太君

古賀亮一君

森山勝之助君

楠仙之助君

准員大正十二年度第三期分會費

金四圓宛

前田與藏君

長瀬時雄君

川越溫君

南弘毅君

藤田弘直君

河合治八郎君

塚本精太郎君

准員大正十三年度第一期分會費

金四圓宛

前田與藏君

耕井照藏君

原久君
田正二郎君
清岡己九君
保原元君
渡邊敏君
安辰時君
達次郎君
小松岱三郎君
田奈良吉君
中謙介君
新田留次郎君
中廉爲人君
上山太郎君
高山繁君

金四圓

會員大正十四年度第三期分會費

金六圓宛

准員大正十一年度第二期分會費

金參圓永戶三郎君

准員大正十二年度第一期分會費

金四圓宛

中原壽一郎君

天草盛長君

金四圓宛

關源修吉君

松藤波謙一君

金四圓宛

前田與藏君

坂元左馬太君

寺田金英二君

鈴木英二君

准員大正十二年度第三期分會費

金四圓宛

前田與藏君

中原壽一郎君

小城末喜君

天草長君

吉田文政君

藤崎藏君

新井榮一君

准員大正十三年度第一期分會費

金四圓宛

前田與藏君

耕井照藏君

梅矢理常君

西畠常君

金四圓宛

前田與藏君

耕井照藏君

武澤源一君
櫻井皆三君
羽成豊君
橋本廣君
松永亮君
沼崎寧君

金壹圓宛
准員大正十三年度第二期分會費

金四圓宛
中野貞君
林將治君
安達秀君
楠仙助君
皿井稔君
山田敬君
藤波謙君
西野清君
森山勝君
鈴木英君

金壹圓拾貳錢

金參圓

金壹圓宛
准員大正十三年度第三期分會費

金四圓宛
寺田梯君
山崎安君
岡田雄君
塙哲郎君
重森幹君
小松廣君
天草修君
長澤盛君
高山良君
新林榮君
小小林吉君
森山勝君
坪田正君
黑田愛君

後藤季辰君
松曳地初君
西野清亮君
奥居太郎君

寺田悌君

伏岡信九郎君
岡田鶴雄君
小倉兼友君
紀成中君
伊藤直君
藤田義君
内木鼎君
石崎貞君
森戸三君
黒坪愛君

正造君

近吾君

雄君
彌君
仁清君
原壽君
藤定君
關谷君
結城君
大吉君
池青君
大林君
辻吉君
積柳君

川島鄰君
皿井總君
三大利君
森勝之君

山田金三郎君

梅津理三君
矢關常一君
關瀬定三君
濱大正君
河合吉君
山田文君
中島治八君
山田金三郎君
中島久吉君
平井力君

杉崎志一君

倉外君
荒木君
山矢君
關平君
中渡君
黑皿君
藤中君
野原君
古櫻君
奥伊君
齊沼君

熊田隆治君
吉岡文政君
小島健三君
小林武君
齊藏四郎君

水野忠保君
關田源三君
南志弘君
貝羽成君
高橋良君
中原勝太君
中嶋亮太君
奥木精太君

沼田征矢雄君

島雅忠君
水野時君
長石三次君
石濱原君
星大川君
楠榮君
楠左門君
星文君
星平君
近良君
要芳君
奈薄君
今橋君
石國君
來島君
上良君
太亮君
太輝君

金壹圓宛

金參圓宛

梅原達也君

金貳圓宛

永田幸義君

准員大正十四年度第一期分會費

金四圓宛

島田義章君

若林邦治君

田中喜代志郎君

北村嘉太郎君

長鮫島久保牛吉君

永島野貞正君

爲井田不次郎君

伊藤谷榮次郎君

小志賀新太君

猿谷平重君

大島野左政君

小木後佐君

柴長松君

波大古君

清金君

後白原君

牧野君

山西君

長也君

島田義章君

島長俊夫君

島久治君

島大平君

島杏重義君

吉田光夫君

吉村則君

吉山那君

吉平市君

吉田重市君

兒島重郎君

信澤貞治君

安達秀男君

百木泰芳君

木山村下勝

西齊藤上勝

齋村小暮藤源

福澤源健

森忠雅

水勝庄

木山高誠

山高誠

水高誠

安小柴

安近木

安太小

安後坂

志田星

結梅

木佐吉

佐兒佐

佐西牧

佐待木

佐福佐

佐義末

佐口山

佐基島

佐藤勝

佐好君

佐吉君

佐丸君

佐通君

佐好君

佐一吉君

佐丸君

佐藏君

佐也君

前田良治君

鬼田彦潔君

高田博君

高田平君

高田隆君

高田七君

高田亮君

高田行君

高田吉君

高田猪君

高田一君

高田三君

高田政君

高田一郎君

高田君

杏掛	重要	義君	君	橋	寛	之君
今井	人君	藏君	君	井源	三郎君	造君
白石	鐵太郎君	君	君	志江	鐵精	一君
柴田	悅太郎君	君	君	志田	精太郎君	七君
直山	實君	君	君	志西	太郎君	二君
日岡	長明君	君	君	林道	太郎君	七君
山口	直助君	君	君	好藤	良太郎君	二君
森森	鹿助君	君	君	内藤	太郎君	吾君
古閑	発助君	君	君	秋佐	藤庭	三君
小山	堆綠郎君	君	君	櫻栗	岡	薰君
山下	清吉君	君	君	清川	水	喜男君
後藤	虎雄君	君	君	田中	野	通吉君
八伊	藤横次郎君	君	君	川上	謙太郎君	之郎君
伊澤	貞吉君	君	君	丸林	中	太郎君
金岡	桂次郎君	君	君	富家	謙太郎君	吾君
齊藤	四郎君	君	君	安藤	欣豐	碌君
瀧藤	實烈君	君	君			
梅本	岩吉君	君	君			
金武	圓宛					
田中	章君					
長岡	喜八郎君					
清水	武雄君					
金壹	圓宛					
金參	圓宛					
石川	治平君					
丸浦	忠直君					

准員大正十四年度第二期分會費

金四圓宛						
龜山	利光君					
柴崎	正君					
有馬	英男君					
大村	四郎君					
清中	水武雄君					
川青	安次郎君					
木水	楠男君					
荒木	多馬君					
井上	禎彦君					
稻葉	通彥君					
飯田	清太君					
漆畠	保治君					
耕井	照藏君					
岡本	尊太郎君					
富永	高行君					
伊藤	楨次郎君					
後千	藤久吉君					
森新	葉雄君					
伊石	鼻良君					
石稻	井市君					
植木	藏君					
重齊	富郎君					
田中	四郎君					
泉佐	種太郎君					
小田	益二郎君					
吉相	益勤君					
今市	正夫君					
伊藤	益勤君					
澤林	政隆君					
打	景行君					

小林庄治君
饭田龍左衛門君
新井恒二君
大野音治郎君
黒宮富四郎君
四野清民君
太田誠一郎君
太安功君
乾市太郎君
饭塙博君
石田二郎君
宇田健二郎君
江木貴一郎君

島田善	稻音君	郎君	四勝	耶君
富田恵	四郎君	一君	勝福	治君
中村新	作君	守	次忠	作君
堀山力	熊君	丸住	忠太	耶君
宮本重	一君	上新	喜太	耶君
森田利	吉若	見山	二喜	耶君
大木利	彦君	田川	季重	耶君
新井利	彦君	市口	純一	耶君
高橋文	良種君	百瀬	圭治	泰君
堀越知	三君	西岡	利八	周君
小林林	庭	奥田	田中	君
木西片	岡	諸野	典一	君
金子	桐	高川	九義	繁君
徳永	宍一郎君	中野	繁	君
井上	善人君	上研	一	君
笠島	助君	信一	九	君
松下	樹君	信	九	君
木八	根君	田中	義	繁君
吉田	政衛君	佐野	三	君
和田	典一君	佐藤	三	君
小畑英	之君	佐藤	正臣	君
中村一	造君	佐藤	正臣	君
八代	政市君	佐藤	良君	君
北川幸	三郎君	佐藤	時治	君
上野正	一君	三村	秀雄	君
岸本日出	次郎君	平野	重市	君
金貳圓	宛	平野	重市	君
准員大正十四年度第三期分會費				
金四圓	宛	耕井	照彦君	
森鼻至	良君	飯田	龍左工門君	
漆間武	君	楠仙	之助君	
菅原清	吉君	草野源	八郎君	
丸林統	郎君	百瀬	泰治郎君	
金壹圓貳拾五錢		三村	頤治郎君	
金貳圓		齊藤	四郎君	
准員大正十五年度第一期分會費				
金四圓	宛	岡本	喜太郎君	

鳥田義	章君	岡本喜太郎君
金久保	佐七君	黒木繁君
佐藤俊	策君	志内壽親君
信深	貞治君	渡部清作君
張惟	和君	

森鼻至	良君	金久保佐七君
-----	----	--------

松井 照藏君	志内 寿 親君		
金貳圓	漆間 武君		
金壹圓拾參錢	島田 義草君		
學生員大正十二年度第一期分會費			
金貳圓五拾錢	門脇 融君		
學生員大正十二年度第二期分會費			
金貳圓五拾錢宛	村上 保則君	坪田 正造君	
金壹圓八拾七錢	楠他之助君		
學生員大正十二年度第三期分會費			
金貳圓五拾錢宛	矢部 義定君	坪田 正造君	
學生員大正十三年度第一期分會費			
金貳圓五拾錢宛	門脇 融君	村上 保則君	原田 英雄君
矢部 美定君			
學生員大正十三年度第二期分會費			
金貳圓五拾錢宛	門脇 融君	兼岩 傳一君	野口 謙君
白鳥 啓吾君	原田 英雄君		
學生員大正十三年度第三期分會費			
金貳圓五拾錢宛	門脇 融君	野口 謙君	松田 俊正君
原田 英雄君	中明宅次君	廣川 憲二郎君	濱地 辰助君
山本 幸夫君			
金壹圓八拾七錢	島田 義章君		
金壹圓貳拾五錢	杏掛重義君		
學生員大正十四年度第一期分會費			
金貳圓五拾錢宛	中川 達君	小林 一市君	兼岩 傳一君
藤井 雄之助君	澤勝藏君	野呂 禮三君	小西 芳久君
杉戸 清君	山崎桂一君	芝谷常吉君	浦要治君
平井彌之助君	辰村國治君	佐藤文哉君	榮師神榮七君
柳澤米吉君	桑野實代嗣君	小田川利喜君	福西正雄君
黒田 静夫君	野口誠君	石井多三君	古川朝時君
廣川憲二郎君	濱地辰助君	堀越一三君	高橋佐一君
山本 幸夫君	三村頼治郎君		
金壹圓八拾七錢宛	大林勇治君	伊藤 信君	泉 一雄君
伊藤 令二君	村上時治君		
金壹圓貳拾五錢宛	松田俊正君	長岡喜八郎君	
金六拾貳錢	伊藤政惠君		
學生員大正十四年度第二期分會費			
金貳圓五拾錢宛	野呂 禮三君	藤原 一雄君	鄭在英君
石井 多三君	光井 三郎君	宮越 義重君	佐藤 寛君
山本 英俊君	波邊儀一君	福島 三七治君	古市千太郎君
岡田 四郎君	宮崎 貢君	源五郎九佐源次君	小山後一君
土田 喜三 次君	杉之尾實之君	大野 博君	白井 一郎君

岡田正一君	山口直樹君	岡野幸三郎君	森俊夫君
岡富忠寛君	清水政實君	堀田謙君	高木健吉君
富田龍一郎君	劉作樺君	福井平藏君	武本光太郎君
田代博雄君	藤井虎雄君	高木夫君	
金六拾參錢宛	大林勇治君	伊藤信君	泉一雄君
伊藤令二君			
金壹圓貳拾五錢	三村頼治郎君		
金壹圓八拾七錢宛	永淵五郎君	浪平貞雄君	美藤義利君
蒲原要三君	勝並治八君	松原祐一君	内田博君
四口晶三郎君			

學生員大正八年度第二期分及大正九年第二三期分會費

金六圓 郷田祐吉君